

# 『どこでも刑法# 総論』

---

(O.Y・法科大学院生・20代)

『ひとりで学ぶ刑法』(有斐閣)の執筆者の1人である和田先生が、200頁ほどで刑法総論をまとめたこと知り、難解な分野である刑法総論をどのようにまとめたのか気になったため、本書を手に取りました。すべての項目が4頁または6頁で解説されており、隙間時間に読むことができました(1日あれば1周できる分量だと思います)。

これまでいくつかの刑法総論分野の基本書や論文などを読んできましたが、それらの中で整理できない部分が多量にありました。本書を読んでみて、どの項目もコアな部分を中心に解説がなされており、整理しきれない部分について、考えがまとまってきました。

特に因果関係の解説は、近時の考え方に立ちながら、コンパクトながらも具体的な説明がなされており、大いに参考になりました。また、未遂犯における密接関連行為と結果発生の実害性との関係が数行でわかりやすく説明がなされているので、司法試験を受験される予定の方は本書を手にとるとよいと思います。

初めて刑法を学ばれる方であれば、まず本書を手にとってから他の基本書・論文などを読み(もっとも、基本的な知識は本書のみで十分得られます)、再び本書を読み直すと刑法総論について一層深く理解ができるはずです。

『法学教室』2020年2月号(No.473)掲載「Reader's Voice」より